



7



8



11



4



6



5



10

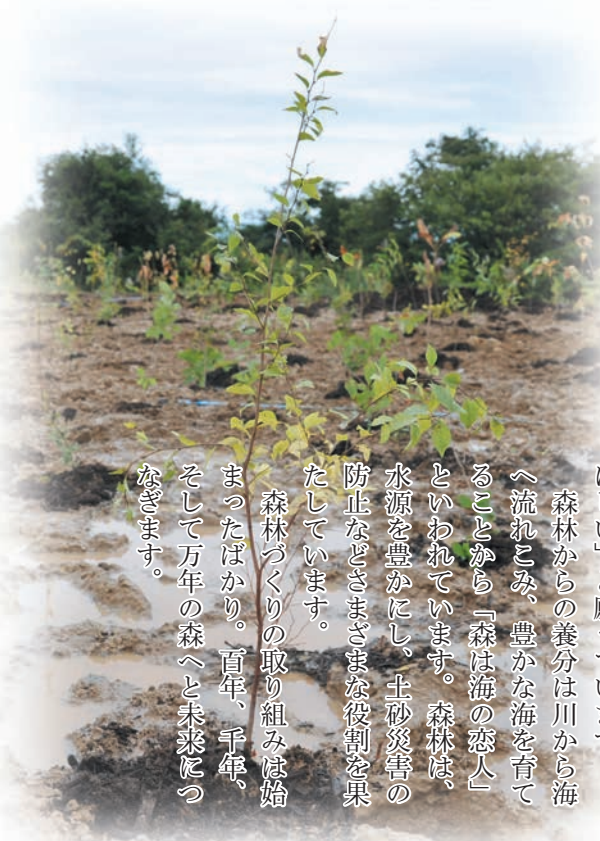


9



12

1 感謝状を贈呈される鈴木会長（中央） 2 「緑の誓い」を述べ決意を新たにした 3 記念植樹後に行われた写真撮影 4・5・6 参加者全員による植樹活動 7・8 どんぐり君やカンバツ君たちも会場に駆け付けた 9・10 アトラクションで会場を盛り上げた 11 昼食はカレーライスとほっと汁 12 植樹の説明を行う及川事務局長（右）



森林づくりの取り組みは始まったばかり。百年、千年、そして万年の森へと未来につながります。

未来へつなぐ森林づくり

「トンボとホタルが生息できる環境を残していきたい。そのためには水を守ること、そして森林づくりが大切」と語る奥州万年の森をつくる会事務局長の及川浩行さん。10年前から森林づくりに取り組んでいます。

地元の子どもたちと一緒に実施してきたこの取り組み。現在は苗木を植えるだけでなく、子どもたちと一緒にドングリから苗木も育てています。「長い年月をかけて育っていく森林。子どもたちにも目先のことでなく、将来のことをしっかり考え、木々と一緒に成長していくってほしい」と願っています。

森林からの養分は川から海へ流れこみ、豊かな海を育てることから「森は海の恋人」といわれています。森林は、水源を豊かにし、土砂災害の防止などさまざまな役割を果たしています。

森林づくりの取り組みは始まったばかり。百年、千年、そして万年の森へと未来につながります。

取り組みから10年

いわての森林の感謝祭は県内各市町村の持ち回りで毎年実施されているもので、本年度は本市で開かれました。同時に開催された奥州万年の森植樹祭も今回で10年目。これまで約2000人が参加した広葉樹の森林づくりへの取り組みは節目の年となりました。

前沢ふれあいセンター野外ステージで行われた式典では、小沢昌記市長が「植樹は次代につないでいく大切な事業。未来に夢をはせながら取り組んでほしい」とあいさつ。市内の森林・自然愛護少年団を代表して、北條翔麻君（黒石小6年）、菅原梨沙さん（田原小6年）が、菅原梨沙さん（田原小6年）、佐藤優太君（伊手小6年）の3人が「守ろうこの緑を、伝えようこの緑を、つなげよう緑のルールどこまでも」という「緑の誓い」を述べ、緑あふれる未来を築いていく決意を新たにしました。

また、森林整備功労者として、奥州万年の森をつくる会（鈴木哲也会長）らに千葉茂樹岩手県副知事から感謝状が贈られました。

式典後は、奥州万年の森公園で記念植樹、記念標柱建立が行われました。植樹活動に市内の各少年団や前沢小学校4年生の児童・保護者らが参加し、森林に感謝の思いを込め、14種類の広葉樹など約3600本の苗木を植えました。



1



2



3

森林づくりに参加して

Interview

苗木の種類が思ったより多くて驚きました。森林は水と空気に深い関係があることを学び、自分たちにとって大切なものだとあらためて思いました。今回植えた場所の土は粘土質でしたが、木を植える土は粘土質が適しているのか調べてみたいです。



千田 風花 さん
（前沢区・前沢小4年）

雨が降ったあとのぬかるみでの植樹作業、大変でしたが頑張りました。森林は空気をきれいにしたり、地球温暖化の防止などいろいろな役割があります。植えた苗木が大きな森に育ってほしいです。これからも緑の募金活動などを頑張りたいです。



北條 翔麻 君
（水沢区・黒石小6年）